

## 平成 22 年度第 3 回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成 23 年 2 月 17 日(木) 13 時 30 分～15 時 20 分
開 催 場 所	いわき市文化センター 1 階 大講義室
委 員 (13 名出席)	<b>【出席】</b> 大川会長、石川委員、岡委員、岡田委員、鴨下委員、木田委員、佐藤委員、柴崎委員、鈴木(正)委員、鈴木(司)委員、鈴木(幸)委員、武田委員、山野辺委員 <b>【欠席】</b> 阿部委員、梅村委員、鈴木(一)委員、高木委員、和田委員
事 務 局 (9 名出席)	生活環境部 吉田部長、加藤次長 環境整備課 永井課長、渡邊主幹、佐々木ごみゼロ推進係長、園部主査、齊藤リサイクル係長
議 事	(1) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)について (2) 平成 23 年度一般廃棄物(ごみ)処理実施計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度実施計画の実績見込みについて(報告)</li> <li>・平成 23 年度実施計画(案)について</li> </ul>
配 布 資 料	資料 1-1～1-3 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)について 資料 2-1 平成 22 年度実施計画の実績見込みについて(報告) 資料 2-2 平成 23 年度実施計画(案)について 資料 3 生活環境部環境整備課の見直し 資料 4 「生ごみ減量化啓発・調査事業」の実施

### 主 な 審 議 内 容

#### 【会議の成立について】

事務局から、「委員 18 名中 13 名の出席があり、いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第 31 条第 2 項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していること」が報告された。

#### 【前回議事録承認】

事務局から提出のあった「平成 22 年度第 2 回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録(案)」について承認された。

#### 【今回の協議事項】

##### (1) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)について

ごみゼロ推進係園部主査から資料1-1～1-3について説明があった後、質疑応答となった。

○ 鈴木(幸)委員

5 ページの 1 人 1 日あたりごみ排出量の H22 年度目標値 950 グラムは達成できず、980 グラム程度になると予想している。一方、25 ページに H27 年度目標値 1,000 グラムがあるが、これでは努力が足りない。970 グラム程度にするべきでは。

また、リサイクル率も市民が努力するものとして 26 パーセント程度にできないか。

○ 園部主査(事務局)

前回審議会の「基本的な考え方」における議論でも説明したが、現在の計画では古紙を含めない数値を目標にしているが、新たな計画では古紙を含めることとしたい。5 ページ下のグラフや表にある H21 年度 1,145 グラムが、H27 年度目標値 1,000 グラムに対応するものであり、よりダイナミックな目標を掲げるべきとの意見があるかもしれないが、34 万人という人口規模を考慮すると決して控え目な目標ではないと考えている

リサイクル率については、H19 年度に 18.6%まで上昇したが、それ以降古紙回収量の減少等により、再資源化する品目は増やしているものの数値が逡減している状況にある。より高い目標としたいところではあるが、まずは現計画で掲げた 24%の目標を達成していくという考え方である。

○ 大川会長

注釈はあるが、まずは、古紙を入れるか入れないかで誤解のないような説明が必要である。リサイクル率については、現実離れた目標を掲げても仕方がないわけで、適度な目標になっているかどうかだと思うが、事務局の説明で理解できる場所である。

○ 石川委員

一般廃棄物の処理は市町村の責務で行うことになっているが、事業系一般廃棄物については、市民向けの施策をそのまま適用してよいかという議論がある。南部清掃センターの展開検査などに戦々恐々としている業者も多く、産廃の許可を取る必要があるのかなど、混乱している向きもあるため、事業系一般廃棄物の扱いについて、よく考えてもらいたいと思う。

○ 事務局(永井課長)

昨年の 4 月から、南部清掃センターにおいてパッカー車を含めた展開検査を実施しているが、その中で産業廃棄物や分別違反の一般廃棄物の混入が明らかになってきている。許可業者向けの説明会等により、周知に努めているところだが、1 年間の成果を踏まえて今後も取り組みを進めていきたい。

○ 石川委員

机上の議論がそのまま現場に適用されると、身動きが取れなくなりごみが滞留したり不法投棄が増えたりする懸念もある。

○ 永井課長

このような取り組みを進める際には、現場の声を聞くことも重要であると考えており、現場の声を聞きながらも適正処理の向上に努めていきたい。

○ 大川会長

市民向けと事業者向けで異なる対策が必要というのはそのとおりではないか。法律どおりに行ってごみが減ったとしても、別の場所に滞留しては仕方がないので、現場の声も聞きながら進めていただきたい。

○ 武田委員

家庭系ごみ減量施策の内容を見ると、これまでも進めてきた生ごみを中心となっている。リユース瓶の普及促進など、別の施策を打ち出す考えはあるのか。

○ 園部主査(事務局)

生ごみだけということではなく、審議会で議論いただき1月にスタートした「その他の紙」や「製品プラスチック」についても定着を図り、焼却ごみの削減を進めていきたい。

また、17 ページに記載のとおり、それらを含めて分別の徹底を進める必要があると考えている。実施計画の実績報告の中で例年示している家庭ごみの組成調査の結果を踏まえ、適正分別のさらなる向上を図っていきたい。

○ 木田委員

とてもコンパクトでわかりやすい計画である。あまり読んでもらえない計画もあるが、この計画は多くの市民に読んでほしいと思う。特にすばらしいと感じたのが 24 ページ以降で、どうしてその数値目標が掲げられているか考え方がしっかり書かれていることである。ごみ処理の問題はすそ野が広いので、多くの人が、バックデータも含めて計画の内容を共有してほしいと思う。

○ 園部主査(事務局)

おほめいただきありがたい。計画を進めるにあたっては、なぜその目標に向かうのかという考え方が最も重要になるため、十分に留意していきたい。

○ 大川会長

何点か指摘したい。

まず、13 ページの下の矢印で「南部清掃センター1 場化を図るためには、焼却ごみ量をおおむね 10 万トン以下にする必要があるため、実際にはさらなるコスト減が可能です」とあるが、意味がわかりにくいので、推敲をお願いしたい。

次に 17 ページで「環境教育の充実」とあるが、行政が教育してやるというような意味にとらえられかねないので、施策の内容を踏まえると「環境意識の高揚」などに置き換え「教育」は使わないほうがよいと思う。

それから、23 ページに「20 年後のごみ処理行政を見据えて」というコラムがある。9 ページの「人口減少や環境問題への対応を適切に考慮しない場合に想定される影響」もそうだが、コラムではなく計画の内容ではないか。27 ページのコラムのように参考であればよいが、計画内容なのか参考なのかわかりにくくなるため、整理した方がよいと思う。

最後に 41 ページのパブリックコメントの概要だが、提出人数と件数のみであるため、資料 1-3 をすべて入れるとまでは言わないが、もう少し内容を追加した方がよいと思う。

構成については、木田委員の意見のとおり、わかりやすいものである。

○ 佐藤委員

脚注の番号が本文にないようだが。

○ 園部主査(事務局)

本文には入れているが、小さすぎるかもしれない。フォントサイズを大きくするなど工夫したい。

○ 石川委員

7 ページのごみ処理コストの中で、焼却に要する助燃剤はどこに含まれるのか。

○ 園部主査(事務局)

物件費である。

○ 石川委員

いわき大王製紙などでは、木くず・紙・プラスチックを RPF にして燃料としている。これらの品目は清掃センターでは搬入規制しているが、逆に助燃剤の助燃剤として活用することはできないのか。

○ 永井課長(事務局)

日本のごみは水分が多いため、乾燥・焼却という工程により処理するよう炉が設計されている。助燃剤が必要なのは炉の立ち上げ時であり、一定のカロリー範囲内であれば、その後は自燃できるようにになっている。

なお、製紙工場においては汚泥由来 RPF などの実験も行っているが、一般廃棄物の燃料化については、塩分の問題などもあり歓迎されないようである。

○ 大川会長

実験段階にあるものが主流になる可能性もある。計画の進行管理は PDCA により進められるので、その中で必要に応じ検討していけばよいと思う。

他に意見がないようであれば、計画案を了承することとして、次の議題に進みたい。

(2) 平成23年度一般廃棄物(ごみ)処理実施計画(案)について

ごみゼロ推進係園部主査から資料2-1～2-2について説明があった後、質疑応答となった。

○ 鈴木(幸)委員

電気や水の節約と同様にごみの減量も進める必要がある。同じアパートに住んでいる学生には、間違っただけをその都度注意し、改善が図られた経験がある。

生ごみは水切りして出そうとか、1日 100 グラム減らそうなどをスローガンにすれば、意識の高揚が図られ減量が進むではないかと思う。

○ 永井課長

焼却している 118,000 トンのうち、生ごみは半分近くを占めており紙類も多く含まれている。量的に多いものへの対策が減量に向け有効であると考えている。1 月からは生ごみ減量化に向けたキャンペーン事業を新たに開始しており、担当係長から説明したい。

(齊藤リサイクル係長から、資料 4「生ごみ減量化啓発・調査事業の実施」について説明)

○ 大川会長

スローガンの提案があったところである。様々なスローガンがあると思うが、この事業のスローガンはなにか。

○ 齊藤リサイクル係長

番組名の「みんなで取り組もう ごみダイエット チャレンジ 50」がスローガンである。

○ 鈴木(正)委員

製品プラスチックや雑がみについては、出し方や出す日がわからない人もまだいると思うので、周知を続けてほしい。

また、ごみを減らすためには、このようにすればごみが減るといったアイデアも含めて PR するのがよい。各家庭でごみ出しを担当するのは 1～2 名であり、これらの人に働きかける必要がある。

○ 永井課長

製品プラスチックと雑がみについては 1 月から開始している。事前にパンフレットを全戸配布しているが実施段階に入ってわかりにくいとの声も出ていることから、あらためてポイントを説明したちらしを作成して全戸回覧する予定である。また、FM や街頭キャンペーンにより、生ごみ対策も進めていきたい。

○ 大川会長

優良事例PRの意見が出たが、表彰によりたたえるやり方などもあると思うので検討していただきたい。

○ 鴨下委員

生ごみキャンペーンについては、啓発方法として様々な方法が取られておりよいと思う。紙ベースの啓発はよく行われるが、よく見ない人もいるので、変わった部分を目立つようにするとか、見本を示すなどすればわかりやすくなる。

雑がみについては、これまでより古紙として出しやすくなったが変更点も多い。すでに行っているのかもしれないが、実際に出し方を体験してもらうことなども周知の方法だと思う。

○ 大川会長

いずれにしても、PRのやり方は今後もよく考えていく必要がある。

○ 武田委員

ハンドブックや保存版チラシなどいろいろなものを見る必要がある。

○ 齊藤リサイクル係長

近年、リサイクルやごみ減量の観点で分別区分の変更が続いており、やむを得ずこのような状況になっている。どのような形になるかわからないが、ハンドブックとカレンダーの内容については、見直しを検討していきたい。

○ 武田委員

例えば、エイビーパックはどのように出せばよいか

○ 齊藤リサイクル係長

裏にアルミがついているものでも、紙以外の素材がついたものということで「その他の紙」で出してよい。

○ 武田委員

そのような細かいところがわかりにくい。

○ 齊藤リサイクル係長

ご意見を踏まえて、配布物の見直しを検討していきたい。

○ 吉田部長

市民の側からみてどうかという基本に立ち返り、皆様に理解していただけるような周知に努めていきたい。

○ 大川会長

簡単な方がよいという人もいれば詳しい方がよいという人もいる。様々な手段で繰り返しというマルチ作戦を進めるしかないというのが結論ではないか。

○ 永井課長

ご指摘のとおり、繰り返し時間をかけながら浸透させていきたい。

○ 岡田委員

生ごみ処理機のモニターとあるが何人申し込んでいるのか。

○ 齊藤リサイクル係長

明日から募集開始であるため、これからである。

○ 鈴木(司)委員

自社から排出される廃棄物の集計を行っているが昨年比で82%という状況である。目標を具体的に数値化し、表彰などのインセンティブと組み合わせながら、毎年負荷をかけていくと効果がでてくる。まずは目標を理解してもらうことが重要である。

○ 鴨下委員

春・秋の総ぐるみ清掃の際に、大量の草や木が一時期に排出されている。家庭からの生ごみは堆肥化のためのインセンティブが各種設けられているが、このような草木についても、公園等で堆肥化できるものについては回収しないといったことも検討してはどうか。

○ 園部主査(事務局)

総ぐるみの見直しの話は何度かさせていただいているが、なぜ見直しかというと、美化という切り口だけでは、集めてきれいになって終わりとなってしまうからである。美化で集めた草木は清掃センターで焼却しており、これでは焼却ごみの減量にはつながらない。

総ぐるみは、長年、市民・事業者・行政が協働で進めてきた取り組みであり、その枠組みを活用して美化とごみ減量の二本柱、さらには地球温暖化対策にも取り組んでいきたいと考えている。

具体的な見直し内容については、今後お示ししていきたい。

○ 岡田委員

公園に集めた草を子どもたちに踏ませ、燃やすごみとしては出さないという事例もある。

○ 大川会長

以上、基本計画と実施計画について議論を進めてきた。細かい部分では議論が尽きないが、大枠事務局案を了承することとしてよいか。

○ 一同

異議なし。

(3) その他(報告事項)

ごみゼロ推進係園部主査から資料3(ごみゼロ推進課への改称と課内業務体制の見直し)について説明した。

○ 大川会長

スローガンにもなり得る名称変更であり、望ましいことである。